

梁取三義 （あきつとむ） 小説家。明治四十五年六月（二十五日）福島縣南會津郡生れ（一九二一）。本名光義。筆名彩田義夫、牧村眞澄、西條純夫等。法政大學文學部卒。新聞・雑誌記者を経て作家生活入り。大衆文藝社編輯局長、彩光社顧問、日本作家クラブ副理事長、隨筆作家連盟責任者等々務めた。雑誌『旅と酒』主宰。

著書『花咲きのね』（再版・昭和十五年七月、二十日菊田廣文社）、『世紀の曙』（昭和十六年十一月、二十日富士書院）、『村のあけぼの』（昭和十七年四月、二十五日大衆文藝社）、『少年武士道』（昭和十八年七月十日六合書院）、『男の責任』（昭和二十一年九月一日文化書房）、『恋ごころと身は』（彩田義夫名、昭和二十八年一月一日彩光社）、『花いあらねば』（同、昭和二十八年二月一日彩光社）、『一等兵隨筆』（昭和二十年七月十日彩光社、再刊・十一月一日「彩光新書」）、『男の責任』（昭和二十年十二月一日彩光社「彩光新書」）、『蓮作小説『色魔』（合作、彩田義夫名、昭和二十一年二月一日彩光社「彩光新書」）、『ロマンス・グレー』（合著・平野威馬雄編、昭和二十一年二月二十



『弘道閣「パレット文庫」』、『手前味噌「隨筆・」等共物語』(昭
 和二十一年九月)『彩光社』、『不倫の生態』(昭和二十二年九月五
 日彩光新社)、『ふりごと』(昭和二十四年一月)『彩光新社』、
 『多摩郷土夜話・第四集』(公署・鈴木哲太郎編著、昭和二十五年二
 月一日白雲書屋)、『流れの性』(昭和二十五年四月十五日東京信友
 社)、『明日の賭けるジェット王』松尾静磨物語』(昭和二十七年五
 月十日アルプス「財界アルプス文庫」)、『小説啄木』(昭和二十九
 年二月十五日彩光社)、『会津落城悲史「激流の棹」於人々』(昭
 和五十年四月二十日国書刊行会)等。

